

付費の動向等により、大きく変わり、年度末までに補正が必要となりますが、予算の節減に努め、基金の取り崩しや市債の借入を少しでも減額するよう努力します。

また、一般家庭の貯金にあたる市の基金残高は、平成19年度末の見込額で、約39億5,000万円、前年度末と比較して約4億6,000万円、率にして、13・1パーセントの増となっております。この要因は、平成19年度において、新規に合併特例債等を財源に6億1,700万円を積み立てた地域振興基金によるものです。

しかし、平成20年度の当初予算の段階では、平成19年度末の見込額と比較して約3,400万円の微減となっております。

一方、一般会計の地方債（借入金）残高は、平成19年度末見込額で約288億8,000万円、平成18年度末と比較すると約12億6,000万円、率にして4・2パーセントの減となっております。これは、平成19年度中に借入れた地方債より返済した地方債元金の方が上回ったため、健全な財政運営ということが出来ます。

なお、平成20年度の当初予算の段階では、平成19年度末の見込額と比較して約13億2,680万円、率にして4・6パーセントの減となっております。

